



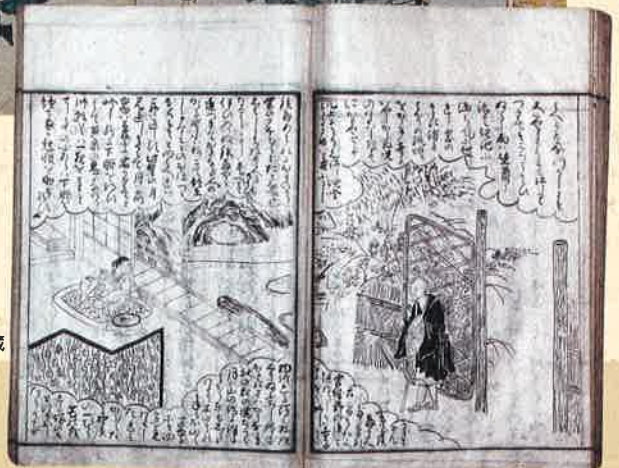
# 市史通信

## 第10号

仙台市博物館  
市史編さん室



「番町皿屋敷」の芝居の一場面を描いた歌川国芳の浮世絵 仙台市博物館蔵



亡霊となった宮千代のもとを訪れる老僧 「奥州名所図会」 斎藤報恩会蔵

## sendai 今昔

### 仙台異聞—仙台に住む異界の住人

最近、仙台の古い地名を道路の愛称としてよみがえらせようと、あちこちに標柱が立てられています。お気づきでしたでしょうか。しかし、間違っても復活しそうな地名というものもあります。たとえば、東一番丁と二番丁を結ぶ横丁の一つである「化物横丁」などはその一つでしょう。化物横丁の地名の由来ははっきりしませんが、今はビルが立ち並び、人の往来が絶えないそのあたりも、江戸時代にはうっそうとした屋敷林が生い茂り、狸や狐が出発することもあったという武家屋敷街で、異界の住人である化物が出て全然おかしくない雰囲気だったとか。

一方で、仙台には異界の住人の名にちなんで付けられた地名もあります。宮城野区の宮千代はその代表例でしょう。物語の主人公は松島寺の稚児である宮千代。あるとき和歌の一句を思いついたものの下の句をつぐことが出来ず、そのために悶々としてついに命を落とした宮千代は、宮城野の一角に葬られたそうです。しかし、その塚からは句を詠ずる亡霊の声が聞こえ、それを憐れんだ松島寺の高僧が下

の句を付けた所、以後亡霊の声は止んだのだそうです。

江戸時代の文献をみると、仙台北下のあちこちにこうした亡霊や妖怪が出没していたようです。そんな中で興味を引かれるのが川内の「化物屋敷」です。元禄8年(1690)の「仙台鹿の子」によると、仙台北の丸の北にある武家屋敷街の一角(今の東北大学川内北キャンパスあたり)に荒れたままになっている「化物屋敷」と呼ばれる場所があって、主人秘蔵の皿を割って手討ちにあったまつという女性の亡霊が出たそう。そう、有名な「番町皿屋敷」の仙台バージョンです。全国に48箇所あるという「皿屋敷」伝説が仙台北下にも存在したのです。

この「化物屋敷」があり、仙台北の立つ青葉山・川内一帯は、中世には多くの寺院があった霊場とでもいうべき場所でした。「化物屋敷」伝説の背景には、そうした過去の記憶があったとも考えられます。妖怪や幽霊たちが実在したかどうかはさておき、その「活躍の場所」には何らかの歴史的事実が隠されているのかもしれない。

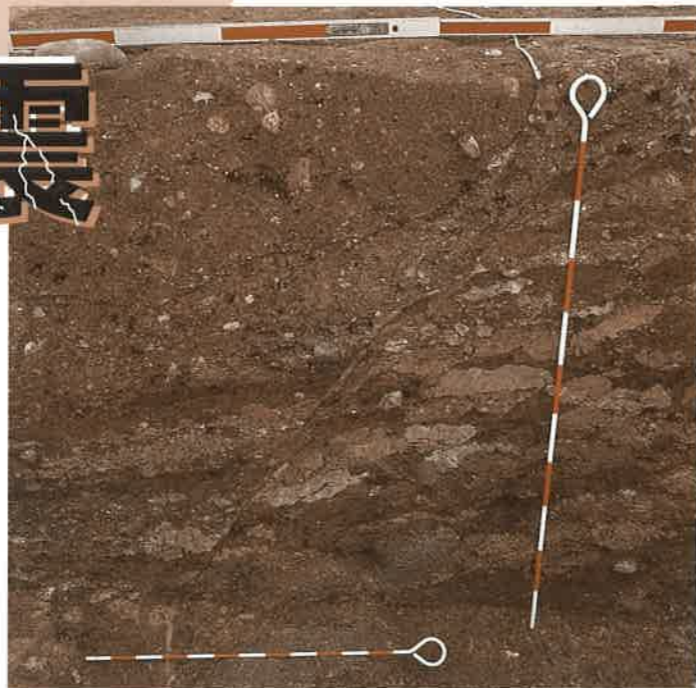
# 仙台と地震

去る5月26日午後6時24分、宮城県沖を震源とする大きな地震が東北地方を襲いました。

これまでも仙台は、大きな被害をもたらした昭和53年(1978)の宮城県沖地震をはじめ、多くの地震を経験してきました。そして、今後30年の間に、新たな宮城県沖地震が起こる確率は99パーセントとされています。今回の地震を契機に、これまで以上に地震対策への関心が高まることと思います。

そこで今回は、江戸時代以前に仙台とその周辺で起きた地震の代表的なものをご紹介します。

(以下、月日は旧暦です)



地震でできた断層 仙台城本丸跡の発掘調査で見られ、江戸時代前期のものと思われる。画面右上から左下にかけて亀裂が見える(写真提供 仙台市教育委員会)

も85匹溺死したとあります。また、南部や津軽で死者3000人、北海道東部でも多くの死者が出ました。

仙台では、名取川河口から5キロメートル上流の今泉で50人が溺死し、家が押し流されたという記録があります。また、海水に浸かったために荒地となった三本塚や下飯田(若林区)など多くの土地で、後に新田開発が行われました。海岸から直線距離で5キロメートル内陸に入った霞目(若林区)の浪分神社には、押し寄せてきた津波がここで二つに分かれたという伝説があります。



## 仙台城の地震被害

仙台城は慶長5年(1600)の築城から260年ほどの間に12回ほど大きな地震に見舞われました。仙台城の石垣や櫓はたびたび破損し、そのつど修復され、城の姿は徐々に変わっていききました。

その実情は、平成9年から仙台市教育委員会が行っている石垣解体調査によって、明らかになりつつあります。

## 元和2年(1616)7月28日

仙台城の石垣や櫓が壊れたという記録は、この地震の時をはじめ出てきます。『伊達治家記録』には「仙台城石壁・櫓等悉く破損」と記されています。

この地震の30年後に描かれた『奥州仙台城絵図』の石垣と、発掘された築城期の石垣(Ⅰ期石垣)では配置などが異なっています。このことから、元和2年の地震がもたらした石垣が新たに構築されたもの(Ⅱ期石垣)と考えられています。

Ⅱ期石垣は、Ⅰ期と同じく自然石を積み上げた「野面積み」という石垣ですが、表面をのみで加工したり、奥行きが長くなるように石の向きを変え、急な勾配で積み上げるなどの工夫がなされていました。

## ●江戸時代以降に宮城県の沖合で発生した大きな地震

和暦年	西暦年	月日	マグニチュード
慶長16	1611	10.28	8.1
元和2	1616	7.28	7.0
延宝5	1678	10.9	8.0
享保2	1717	4.3	7.5
寛政5	1793	1.7	8.0~8.4
天保6	1835	6.25	7.0
安政2	1855	8.3	7.0~7.5
明治29	1896	6.15	6.8
明治30	1897	2.2	7.4
明治30	1897	8.5	7.7
明治31	1898	4.23	7.2
昭和8	1933	3.3	8.1
昭和11	1936	11.3	7.5
昭和53	1978	2.20	6.7
昭和53	1978	6.12	7.4
平成15	2003	5.26	7.0

※ 〇は昭和53年6月の宮城県沖地震と震源域が近接していると想定されているもの  
※ 安政2年以前の月日は旧暦

## 正保3年(1646)4月26日

内陸部で地震が発生し、本丸詰門の脇櫓や長櫓、翼櫓などが破損しました。白石城(白石市)でも石壁・櫓が破損しました。

## 寛文8年(1668)7月21日

『伊達治家記録』では、かなり詳細にこの時の被害が報告されています。それによると本丸北面の石垣がこの地震でほとんどすべて崩落してしまいました。

この地震によって深刻なダメージを受けた石垣は、大規模な修復を余儀なくされました。それまでの「野面積み」に代わり、のみで全面を加工した石を積み上げた「切石積み」と呼ばれる石垣(Ⅲ期石垣)は、この地震の後に造られたとみられています。



仙台城の石垣(写真提供 仙台市教育委員会)  
①第Ⅰ期石垣 ②第Ⅱ期石垣 ③第Ⅲ期石垣

仙台の地震や津波については『仙台市史 特別編1 自然』、貞観の地震については『仙台市史 通史編2 古代中世』、仙台城の修復については『仙台市史 通史編3 近世1』をご覧ください。

市史編さん室からのおねがい

市史編さん室では、資料を探しています。古い文書や写真などございましたら、ぜひ編さん室までお知らせください。

## 市史せんだい

# 『市史せんだい』Vol.13のお知らせ

昨年度の市史編さん事業を報告するとともに、研究成果をいち早くご紹介する市史編さん室の機関誌『市史せんだい』は、これまで12冊刊行されており、たぐいまるVol.13を制作中です。

今回の特集「仙台の書籍をめぐる事情」では、仙台の出版の歴史を振り返る座談会や年表、仙台アメリカ文化センターについての研究ノートを収録します。

ほかに慶長遣欧使節に関する新出資料の紹介や昨年度の市史セミナー「文書に

見る伊達政宗」の講演要旨、江戸時代に宮町で行われていた角力・操芝居興行についての論文など、豊富な話題をお届けします。どうぞご期待ください。

『市史せんだい』は仙台市博物館2階売店でお求めいただけます。

- 1冊900円(税込)
- Vol.1、2、3、4、7は品切れとなっております。

## 施設探訪

# 仙台市戦災復興記念館

仙台市史で使いたい写真や資料が博物館にないとき、必要なものはよそからお借りします。また、資料が見つければ調査に出かけたりもします。このコーナーでは、市史編さん事業の過程で訪れた施設をご紹介します。

仙台市戦災復興記念館は、昭和36年(1961)3月に完了した戦災復興事業を記念して、戦災復興の資料や記録を総合的に展示するとともに、市民に文化活動の場を提供することを目的として昭和56年(1981)4月1日に開館しました。

1階資料展示室に入ると、藩政時代の城下町から、明治、大正、昭和にかけて発展してゆく仙台の街の様子を、絵図や写真によってたどることができます。そして、軍隊手帳など兵士の所持品から、衣料切符や

防空用電灯カバー、国防献金箱などの市民生活に関するものまで、戦時体制下の様々な資料の展示が続きます。仙台空襲に関する資料では、焼夷弾や焼けた瓦、食器などが展示されており、戦争の恐ろしさや悲惨さを知ることができます。また、戦後の復興の様子についても、貴重な写真などによって紹介しています。

戦災復興記念館は大町2丁目、晩翠通と広瀬通の交差点の南西にあります。



仙台市戦災復興記念館 | 仙台市青葉区大町2丁目12-1  
TEL 022-263-6931

地下鉄広瀬通駅より徒歩10分  
市バス東北公済病院・戦災復興記念館前下車、徒歩2分  
休館日 施設点検日、年末年始(12月29日~1月3日)  
開館時間 9:00~16:30



仙台市

# 【修実徳勿求虚栄】

「実徳を修め虚栄を求むるなかれ」と読むこの扁額は、縦65センチメートル、横270センチメートルと大きなものである。明治初期の啓蒙学者中村正直（敬宇）直筆のこの書は、現在仙台市博物館に保管されている。もともとは、明治19年（1886）に清水小路（若林区五橋3丁目）に開学した私立東華学校（男子中等学校）の講堂に、校是（校訓）として掲げられていた。

東華学校は仙台藩士である富田鉄之助（2代日本銀行総裁・東京府知事）や松倉恂（初代仙台区長）等が、仙台の人材育成を目的に開校した学校で、宮城県尋常中学校（現宮城県仙台第一高等学校）の前身にあたる。初代校長に京都同志社大学の創立者新島襄を迎え、最初は「宮城英学校」と称し、キリスト教精神に基づく英語教育を行っていた。

中村敬宇は東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）初代校長で、著書『西国立志伝』や『自由之理』は明治初期のベストセラーである。彼がなぜ東華学校のためにこの額を揮毫した

のか、富田や新島との縁であろうと思われるがはっきりしない。ところで、東華学校が県尋常中学校に引き継がれ閉校になると、校舎は東華高等女学校、宮城県第二女子高等学校へと利用されたが、この額は行方不明になっていた。それが数年前に、仙台基督教育院（青葉区小松島）に保存されていることが判明した。育児院は明治38年の冷害の際に、窮民対策として貧孤児や婦女子を収容保護するため、市内のキリスト教各教派の外国人牧師により設立された救護団体がもとなっている。扁額は昭和のはじめに当時の大坂鷹司院長が譲り受け、講堂に掲げて大事にしてきたが、講堂解体の折りに破損がひどくなったといわれる。育児院に渡った経緯については定かではないが、育児院創設の中心人物の一人である米国人牧師デフォレストは、新島襄の招きで東華学校の英語教師として来仙している。そのような縁から、東華学校閉校後その遺品が育児院に譲られたとしても不思議はない。



『修実徳勿求虚栄』の額 仙台市博物館蔵

## 仙台の歴史を完全収録 各分野ごと続々登場

直接お求めの方 県内主要書店  
でお求めになれます。

配送をご希望の方 電話・FAX  
で宮城県教科書供給所へお申  
し込みください。

発売元 宮城県教科書供給所  
〒983-0034  
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3  
TEL:022-235-7181  
FAX:022-235-7183

お問い合わせ先  
仙台市博物館市史編さん室  
〒980-0862  
仙台市青葉区川内三の丸跡  
TEL:022-225-3074  
FAX:022-216-1830

既刊好評発売中



続刊  
予定

- ◎通史編／近世3・近代1～2・現代1～2
- ◎資料編／近代現代3～4・伊達政宗文書3～4・仙台藩の文学芸能
- ◎特別編／城館・慶長遣欧使節

- 【通史編 2】 古代中世
- 【通史編 3】 近世1
- 【通史編 4】 近世2
- 【資料編 1】 古代中世
- 【資料編 2】 近世1 藩政
- 【資料編 3】 近世2 城下町
- 【資料編 4】 近世3 村落
- 【資料編 5】 近代現代1 交通建設
- 【資料編 6】 近代現代2 産業経済
- 【資料編 11】 伊達政宗文書2
- 【特別編 1】 自然
- 【特別編 3】 美術工芸
- 【特別編 4】 市民生活
- 【特別編 5】 板碑
- 【特別編 6】 民俗

- ※通史編 3,000円(本体2,858円)
  - ※資料編 4,000円(本体3,810円)
  - ※特別編 6,000円(本体5,715円)
  - 板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
- 1冊ずつお求めになれます

- 【通史編 1】 原始(販売停止)
- 【資料編 10】 伊達政宗文書1(完売)
- 【特別編 2】 考古資料(販売停止)

### 仙台市史 でまえ講座

6月28日(土曜日)、岩切市民センター(宮城野区)を会場に、第6回「仙台市史でまえ講座」を開催しました。

当日はあいにくの悪天候にもかかわらず100名近い方々においいただき、岩切の歴史に関する講演が行われました。

「でまえ講座」は仙台市内にある市民センターとの共催で年2回開催しており、次回は9月20日(土曜日)に西多賀市民センターでの開催を予定しています。

### せんだい市史通信 第10号

発行年月日／平成15年7月31日

編集・発行／仙台市博物館市史編さん室

〒980-0862 仙台市青葉区川内三の丸跡

TEL/022-225-3074 FAX/022-216-1830

URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum>